

広報ましき 400号記念

これから身近な 情報誌として

「広報ましき」の第1号創刊され、今月で記念すべき400号を迎えました。
これからも、広報紙の役割を考え、さらに親しまれ愛される紙面づくりに努めていきます。

益城町が産声をあげた昭和29年、本町の広報紙は「公民館報」として創刊されました。

以来、「役場だより」「広報ましき」と呼び名を改めつつ、22年という歳月を経て、昭和51年4月、現在の広報紙の第1号が発刊されました。その時、それまでの「タブロイド判」から「冊子形式」に刷新されました。

広報紙は全国の自治体で発行されていますが、その役割とは何でしょうか。それは、町民の皆さんと行政が一体となった「共働のまちづくり」や「情報の共有」のための「パイプ役」と考えます。また同時に、地域に密着した話題や頑張っている方々を紹介する「一番身近な情報誌」としての役割も担っています。

その役割を果たす

ためには、「読みやすさ」

「分かりやすさ」を第一に、

より多くの人に手に取って開いていた
だき、親しみ愛される紙面づくりを心がけていかなければならないと考えています。

近年は、インターネットなどが普及し、いろんな情報が一瞬にして手に入るようになりました。その中で、広報紙が「紙媒体」であり続ける以上、紙面でしか味わえない「温かみ」が出せたらと思います。

今月は、400号という節目にあたり、広報紙のこれまでの歩みを振り返るとともに、懐かしい記事や読者の方々の広報紙に対するご意見などを紹介します。

仲良く広報を読む広安
小4年の園田紫乃さん
(右)と吉田百花さん



広報の歴史



表紙がカラーの第64号



広報ましき(冊子B5判)



広報ましき(タブロイド判)



公民館報(タブロイド判)

- 公民館報
第1号(昭和29年12月号)
タブロイド判
(縦408ミリ×横273ミリ)
4ページ(隔月発行)
役場だより
- 第1号(昭和43年2月)
タブロイド判
4ページ(隔月発行)
広報ましき
- 第1号(昭和48年7月)
タブロイド判
4ページ(隔月発行)
広報ましき
- 第1号(昭和51年4月)
B5判 冊子形式へ
16ページ(隔月発行)
第8号(昭和52年6月)
毎月発行に変更
- 第53号(昭和56年1月)
役場新庁舎落成と町民
憲章制定の記事掲載
第64号(昭和57年1月)
初めて表紙ページのみに
カラーを採用
- 第115号(昭和61年4月)
紙面中身が2色刷りに
働く婦人の家完成
- 第130号(昭和62年7月)
B5判から現在と同じ
A4判へ 全12ページ
- 第165号(平成2年6月)
町文化会館オープン
- 第182号(平成3年11月)
台風19号による大被害